

# 昭和63年度 和歌山県文化奨励賞

やま だ りゅう さく  
山 田 龍 作

住 所：大阪府大阪狭山市

出 身 地：大阪府松原市

生 年：昭和12年

## ◎業績及び経歴

昭和37年鳥取大学医学部卒業後、大阪市立大学大学院医学研究科内科系放射線医学を専攻し、昭和42年修了、同年医学博士号を取得。卒業後は、同大学医学部に勤務し、助教授等を歴任。また、昭和51年から昭和52年にかけて、文部省在外研究員として渡米、ハーバード大学等に留学し、医学の先端技術を研究する。

昭和56年から、和歌山県立医科大学教授となり、現在に至る。

その間、我が国に多発し、予後きわめて不良で効果的治療法がなかった肝細胞癌に対する新しい治療法「肝動脈塞栓療法」を開発し、その功績により、昭和60年度大阪科学賞を受賞した。今日この治療法は、他の悪性腫瘍に対する治療法としても応用され、我が国のみならず国際的にも広く普及するに至った。

また、一方で肝、胆、すい臓などの癌治療のため、目的部位への超選択的血管造影技術として従来の金属性ガイドワイヤーにかわる「スーパーセレクトティブガイドワイヤー」を研究開発し、昭和61年「第11回井上春成賞」を受賞した。

その他にも、磁気共鳴診断装置や血管造影診断装置(アンジオイメジャー)などの開発を行った。

現代医学における最大の懸案課題である癌療法の開発と先端技術の開発を行い、現代医学の進歩に貢献した功績は大きいものがあり、本県の文化の向上に寄与した。